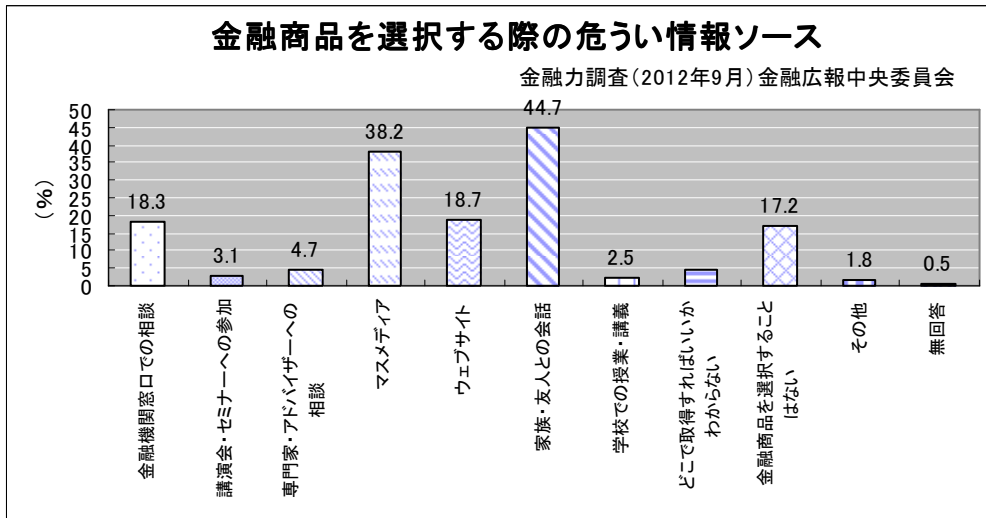


## ATTENTION

### 金融商品を選択する際の危うい情報ソース



このグラフは、一般の人が預金、保険、株・債券や投信などの金融商品を購入する際に、どこに金融商品知識や情報を求めるかを調査したものです。これによりますと、かなり危うい姿が浮かび上がってきます。まず「家族・友人との会話」が45%とトップ。これは、そもそも正しい金融商品知識が少ないかない人同士が、井戸端会議でその時々人気になっている金融商品や運良く儲けた商品をかまびすしく話しているようなものです。次に「マスメディア」も非常に多い情報源ですが、気をつけなければならないのは、時流に乗った商品を紹介するケースが多いし、新聞や記者により金融商品の見方が違い一貫性がないので、読者としてその都度判断がぶれることです。また「金融機関窓口での相談」も多いですが、これはまさに「飛んで火にいる夏の虫」。高い手数料の商品やリスクが高くて金融機関が売りたい商品を掴まされるのがオチです。お客と金融機関はいつも利益相反関係にあることを忘れてはいけません。最後に「専門家・アドバイザーへの相談」がこれら3つに比べ非常に少ないです。実は、私どものような金融商品の手数料によらないアドバイザーに相談することが、最も成功する可能性が高いのです。

## OPINION

### 株が上がっても強気にならない

最近の堅調な市場や円安に水を差すつもりはありませんし、持っているものが上がってくることは大いに喜ぶべきことですが、多くの方が上がってくると強気になり、投入資金をドンと増やしたり、また、これまで損していたので買う気にならなかったが、上がってきたのでホッとして買い始めるという行動に出てきます。この行動パターンは、私が不思議に思うほど多いのです。そのため、株式の取引高が多くなり、投信の新規設定や資金流入も多くなってきます。ところが、このような動きがいかに市場が加熱しているかを表す指標ともなり、この行動パターンの逆をやれば、投資パフォーマンスは上がるという結果がはっきり出ています。

また相場を読むときも、周囲の雰囲気や投資心理が明るい中、当然前向き方向のバイアスがかかります。個人の投資家はどうしてもこういう流れに左右されがちですし、ある意味で常につきまとう呪縛といってもいいかもしれません。

それを取り除くのが、心理を入り込ませない方法であり「安くなったからこそ買う。」という、多くの人と逆を行く姿勢です。人の心理は、上がると強気になり、下がると弱気になり、投資においてはどうしても「高くなると買い、安くなると売る」というマイナス方向の行動を取りやすくなります。それを抑え、あるいは排除することが大変重要です。そのために、安くなっても高くなっても定期的に一定の金額を買う(積立て)、あるいは「安くなったからこそ買う。」という姿勢が大事です。

## MARKET

	(12月末)	(前月比)
日経平均	10395.18円	+949.17円
NYダウ	13104.14ドル	+78.56ドル
米ドル	86.80円	+4.38円

## WORDS

すべて君が苦手だと思ふものに慣れよ。なぜならば左手は習慣のないために他のあらゆる仕事には不器用なのに、手綱は右手よりもしっかり持つ。それはこれに慣れているからだ。  
—マルクス・アウレリウス『自省録』

## 積極型投資信託の実際のコストは驚くほど高い！

証券会社や銀行が盛んに売る積極型投信の実際の運用コストは、目に見える販売手数料や信託報酬だけではありません。積極型投信は、市場平均(たとえば日経平均やS&P500)を上回ろうとして売買を積極的に行なうため、さらに取引の売買手数料がかかります。この運用コストが思っているよりずっと高いものになります。そこで運用コストはどの程度かかるか試算してみましょう。

積極型投信で平均的な売買回転率が100%で(1年で組入れ銘柄が全部入れ替わること)、組入れる証券の売買手数料や売買の価格差(大口売買のため、時価より上がったり下がったりする価格インパクト)が、買いに1%売りに1%の計2%とします。(米国での平均値。長期投資で売買を頻繁にしない投資信託の場合、運用コストは低くなったり交渉で安くなることもあります。)

積極型投信の信託報酬は日本では平均1.5%、上の通り、組入れる証券の売買手数料や売買価格差は2%として、合計の運用コストは3.5%となります。

一方、日本株の期待利回り(前提とするリターン)は6%程度ですので、日本株の積極型投信の場合、6%の期待利回りのうち運用コストで3.5%取られてしまうという

ことになります。

また日本での投信の平均保有期間は2.8年と短く、証券会社が窓口で売る積極型投信の販売手数料は3.15%が多いので、これを2.8年で償却すると、年当たり1.125%の販売手数料のコストとなります。これを先ほどの3.5%に足しますと、運用コストは4.625%。なんと買った投信の期待利回り6%の77%が運用コストで引かれ、純手取り利回りは1.375%ということになります。なお、国債の利回りを0.8%として、これは安全資産利回りで寝てても取れる利回りだから、6%から引くとすると5.2%。この5.2%に対しては、運用コストは89%( $4.625/5.2$ )を占めるのです！また期待利回り6%は仮の利回りで、たとえば実際の利回りが3%でも、しっかり4.625%引かれマイナス圏内、たとえ実際の運用がマイナス(たとえば-5%)でもさらに4.625%乗せられ、-9.625%(これは損の上塗り)。これでは踏んだり蹴ったりです。コストが大きく、利益が出るはずがありません。

日本では、この10年間で市場平均の利回りを上回った積極型投信がないというもうなづけます。この機会に一度お持ちの投信をチェックしてみたいかですか？

## SEMINAR

### 第22回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』

#### -こうすればしっかりお金を増やすことができる-

大切な資産運用で、本当のことを知るのはいへんむずかしくなっています。いい情報も危ない情報もあふれ、手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品を売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動はますます激しくなっています。思わぬリスクの高い商品を勧められ、取り返しの被ることも珍しくありません。

- なぜ日本だけに投資してはダメか、海外投資の必要性とメリット。
- 本当に正しい資産運用法の実践法-やり方によって人生の分岐点にも。
- 証券会社や銀行がいう通りにしては、必ず失敗する。
- よい金融商品とはどういうものか。
- 安心してお金の相談をできる場所はどこか。

詳細はホームページをご覧ください。

30年以上の経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤峰男だから語れる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します！

日時 : 2013年1月27日(日)15:00~17:00

場所 : TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml> (最寄り駅:有楽町・日比谷駅)

講師 : 尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

参加費: 1000円(当日支払い)

申込み方法 : メールまたは電話にて「1月27日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール: [info@bfsc.jp](mailto:info@bfsc.jp) Tel: 03-6721-8386

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ！

書評ブログ-平日毎日更新

<http://www.bfsc.jp>

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

発行者: びとうファイナンシャルサービス株式会社

代表取締役 尾藤峰男

電話: 03-6721-8386

携帯: 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール: [info@bfsc.jp](mailto:info@bfsc.jp)